JLSK NEWS

2019年度版 関西日本ラトビア協会ニュース Vol.11

手つかずの自然と
中世の面影が色濃く残る国

Latvia

ラトビア

バルト海に面した自然豊かな国

ラトビア共和国は、「バルト三国」の中央に位置する北ヨーロッパの小さな国。北海道の約77%の面積に、およそ200万人の人々が暮らしています。ラトビアの風景の中で、まず印象に残るのは緑の多さ。国土の半分を森が占め、河川や湖が点在する自然豊かな土地に、稀少な動植物も生息しています。最高峰でも標高312mしかないため、少し高いところへ登ると、美しい大地がどこまでも広がっている光景に出会えます。日本と同様に四季があり、新芽が芽吹く緑眩しい春、花の咲き誇る色鮮やかな夏、黄金色に輝く紅葉の秋、モノクロのコントラストが広がる白銀の冬と、変化に富んだ美しい季節がめぐります。

伝統文化を大切に継承する人々

自然があふれるラトビアには、四季の移ろいに添った生活の楽しみ方を熟知し、伝統文化を大切に継承する人々が、美しい建造物や音楽に囲まれながら暮らしています。ミトンをはじめとする編み物、麻や毛の織物、樫や白樺から作られる木工品などの手工芸品はラトビアの魅力の一つ。また、ユネスコ無形文化遺産でもある「歌と踊りの祭典」をはじめ、伝統文化を体現するお祭りが大切に受け継がれています。

クリスマスツリー発祥の地

1510年、市庁舎広場に立てられたモミの木に世界で初めて装飾が施されたことから、ラトビアはクリスマスツリー発祥の地とされています。リガでは、11月下旬から1月上旬まで、大聖堂広場を中心にクリスマスマーケットが設営され、ホットワインを片手に買い物を楽しむ人が行き交います。

夏至祭

緯度が高く、夏と冬で日照時間が大きく異なるラトビアでは、古来より太陽の動きが重要視され、その節目に祭祀が行われてきました。特に夏至祭は代表的なお祭り。日中の時間が一番長い特別な日を家族や友人らと森や海辺で過ごします。この日は、女性は民族衣装をまとい、頭には花の冠、男性は樫の葉の冠をかぶり、焚火を囲んで歌い踊ります。

※地図は概略図であり、国名等も省略しています。

History

1282年		リガがハンザ同盟に加盟
1583年		リヴォニア戦争の結果、リトアニア・ポーランド領となる
1629年		スウェーデン・ポーランド戦争の結果、一部分がスウェーデン領となる
1721年		北方戦争の結果、大部分がロシア領、残りはポーランド領となる
1795年		第3次ポーランド分割により全土がロシア領となる
1918年	11月18日	独立を宣言
1920年	8月	ロシア社会主義連邦ソビエト共和国との間に平和条約締結
1940年		ソ連に編入
1990年	3月	共和国最高会議選挙
1990年	5月	独立回復宣言
1991年	8月	共和国の地位に関する基本法採択
	9月 6日	ソ連国家評議会バルト三共和国の国家独立に関する決定を採択
2004年	3月29日	NATO加盟
	5月 1日	EU加盟
2014年	1月 1日	ユーロ導入
2015年	上半期	EU議長国
2016年	7月 1日	OECD加盟

※出典：外務省ホームページ https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/latvia/index.html
（2020年8月時点）

Latvia ラトビア

■ 面積／6.5万平方キロメートル（日本のおよそ6分の1）
■ 人口／193万人（2018年1月現在　中央統計局）
※外務省ホームページより

photo by Akiko Mizoguchi

まるで中世に迷い込んだかのような街並み Riga リガ

ダウガワ川沿いに教会の尖塔が建ち並ぶ美しいパノラマが広がるラトビアの首都リガ市。旧市街全体が世界文化遺産で、ハンザ同盟時代から残る建築群や敷き詰められた石畳が、中世の雰囲気を今に伝えています。馬車の轍（わだち）の跡が残る細い路地や、時間をかけて丸くなった敷石からは歴史の積み重ねを感じ、「城通り」「職人通り」といった通りの名前からは、当時の様子に思いを馳せることができます。また、世界トップレベルのオペラやオーケストラなどの音楽も身近で楽しめる環境にあり、ラトビアの奥深い伝統文化が重なり合って独特の雰囲気を醸し出しています。

2019 9.5

2019年 関西日本ラトビア協会　第11回 理事会･総会を開催

関西日本ラトビア協会の第11回理事会･総会が大阪マルビル 大阪第一ホテルで行われました。ゲストに駐日ラトビア大使のマスィー大使、元駐ラトビア日本国大使の多賀様を迎え、総勢60名もの会員の皆様にご参加いただきました。

マスィー大使の講演では、最近のラトビアの状況、日本との関係、外交のお話など、ここ一年の動きをお話しいただきました。その後、溝口常務理事の乾杯のご発声で懇親会に移り、協会会員の皆様、そして協会で支援している留学生のエリーナさん、日本語学習訪日研修に招待しているウンディーネさんも交えて、親睦を深めました。中締めは、正司常務理事に務めていただき、盛況のうちに終えることができました。皆様、ご協力ありがとうございました。

理事会の様子

関西日本ラトビア協会 第11回 総会

■日時：2019（令和元）年9月5日

■場所：大阪第一ホテル（6階モナーク）

《式 次 第》

【総　会】（17時30分　開会）

主催者挨拶　石橋民生 理事長（在大阪ラトビア共和国名誉領事）

事業報告･監査報告　　事務局･監事（代理：事務局）

【講演会】（17時45分　開始）

講　　師　　ラトビア共和国 特命全権大使 ダツェ トレイヤ･マスィー大使

演題　『 Latest developments in Latvia 』

【懇親会】（18時30分　開宴）

乾　　杯　　溝口常務理事

中 締 め　　正司常務理事

石橋民生 理事長
（在大阪ラトビア共和国名誉領事）

総会の様子

2018年度 事業報告（2018年4月1日～2019年3月31日）

●ラトビアへの
短期ホームステイ実施
（高校生3名）

●日本語弁論大会
優勝者へ賞品協賛
（在ラトビア日本大使館主催
／賞品：日良往復航空券）

出典：外務省ホームページ

●日本語学習者
訪日研修者を招待（1名）

●ラトビア人留学生への奨学金
（3名）

●第10回 関西日本ラトビア協会理事会・総会を開催

●ラトビアトークサロン開催（7回）

●夏至祭（宝塚・東郷顧問邸）開催

●ラトビア人を中心とした留学生を対象に
「日本文化・歴史散策ツアー（高野山）」実施

【新規】

●神戸市主催のラトビア融合建築展、兵庫県EU協会セミナーに協賛（4月）

●ラトビア訪問（建国100周年記念、歌と踊りの祭典に参加、名誉領事主催の祝宴実施）（7月）

●カスパルス・オゾリニュシュ交通副大臣他（港湾・鉄道・航空業界のトップ）が来日、講演会・親睦会を実施（2月）

2018年度 収支報告（2018年4月1日～2019年3月31日）

（単位：円）

		今年度（2018年度）	【ご参考】前年度（2017年度）
前期繰越金		11,018,301	9,156,007
収入	年会費（個人）	28,000	37,000
	年会費（法人）	5,600,000	6,000,000
	総会・トークサロン等会費収入	632,000	994,000
	その他（受取利息・雑収入等）	2,201	16,077
	合計	6,262,201	7,047,077
支出	総会・トークサロン等開催費	1,291,804	1,377,867
	留学生への奨学金（3名）	1,980,000	1,200,000
	高校生短期留学事業費（3名）	1,096,002	1,209,688
	日本語弁論大会賞品提供費（1名）	128,421	123,260
	日本語学習者訪日研修招聘費（1名）	355,592	307,045
	イベント協賛・寄付金（ラトビア融合建築展等）	342,460	625,000
	ホームページサーバー管理費	178,200	210,600
	雑費・交際費（ラトビア建国100th祝品他）	277,272	103,027
	手数料（振込手数料）	42,336	28,296
	合計	5,692,087	5,184,783
次期繰越金		11,588,415	11,018,301

監査報告

収支報告書につきましては、監事・寺岡志郎氏、近久啓太氏に監査いただきました。適正に処理されているものとしてご承認いただいております。

会員状況（2019.3月末現在）

個人	89名（退会 1名　入会 4名）
法人	98社（退会 4社　入会 0社）

【講演会】

Latest developments in Latvia

講師　駐日ラトビア共和国大使館 特命全権大使
ダツェ トレイヤ･マスィー大使

〈略歴〉2017年7月駐日大使に就任。1992年からラトビア外務省に勤務。アジア･アフリカ局長、欧州局副局長、欧州連合のラトビア共和国政府代表などを歴任されています。

ラトビア共和国の近況

現在、ラトビアの経済は上向いており、2019年の成長率は3%と予想されています。2018年の4%からは少し落ちていますが、これは経済の成長が鈍化しているのではなく、さまざまな国際的な環境の影響を受けた結果です。

2019年は、議会の議員だけでなく、新しい大統領も選ばれました。5月29日に行われた選挙で、エギルス･レヴィッツ氏が新しい大統領になりました。レヴィッツ新大統領は、この10月に来日し、天皇陛下の即位礼正殿の儀に参加される予定です。

新しい大統領、そして新しい首相（2019年1月就任）は、二人とも非常に優秀です。首相は、裁判などの知識が非常に豊富で、以前にEU議会の議員も務められていました。その議員時代には、福岡でサミットが開かれたときに来日され、九州大学で講演をされました。

深まるラトビアと日本の関係

この1年で、ラトビアと日本に関わる多くの出来事がありました。なかでも一番うれしいことは、日本とEUの間で自由貿易協定が結ばれたことです。輸出のデータを見ると、ラトビアから日本への輸出が活発になっており、特に木材の輸出が増えています。

2019年2月には、ラトビアから交通副大臣と港湾業界の代表が来日し、関西日本ラトビア協会にもお招きいただいて講演を行いました。特に今回は陸上･海上輸送をメインテーマにして、これからの日本とヨーロッパの間の貿易が増えることで新しいトランジットの道が見えてくるかもしれません。また、6月にはラトビア外務省が来日し、同時期に国会の議長も日本を訪れ、女性の国際フォーラムに参加しました。一方、日本からは観光局がリガを訪問し、3日間にわたり観光イベントが行われる予定です。また11月には経団連の代表がバルト三国を歴訪される予定です。

今年は、政治家だけではなく、芸能や文化の世界の方もたくさん来日しています。9月末には、優れた女性作家のノラ・イクステナさんが東京に来られ、彼女の著作『ソビエト・ミルク』は、近く日本語にも翻訳されて出版される予定です。また、著名な伝承音楽のバンド「アウリ」も来日し、11月に大阪の伊丹でコンサートが開かれますので、皆様ぜひお越しください。

このように、日本の方々のラトビアへの関心は年々高まっています。そして同じく、ラトビア人の日本への関心も年を追うごとに高まっています。今日はさまざまなイベントの話をしましたが、これも全て皆様のおかげです。もし皆様のご協力がなければ、私はこんなに多くのイベントの話をすることはできなかったでしょう。改めて皆様に感謝いたします。関西日本ラトビア協会の活動のおかげで、私たちの現在があります。重ねて石橋理事長に深く感謝の言葉を申し上げます。

最後に私たちはいつも大使館にいます。そして大使館のドアは皆様のために開いています。もし皆様が新しいイベントをお考えになることがありましたら、何でもご協力いたしますので、ご遠慮なくお申し出ください。

【懇親会】

溝口常務理事　乾杯

今日ほど、私の人生の中で「僭越ながら」という言葉が合う日はないと思っていますが、ご指名をいただきましたので、僭越ながら乾杯の発声をさせていただきたいと思います。

2019年、ラトビアは建国101年になりました。2018年の11月18日に建国100周年を迎えましたが、私は本当に特別な日だと思いましたので、いても立ってもいられず、乳飲み子を夫に押し付けて、ラトビアに行ってまいりました。2019年6月にも1カ月間滞在しましたが、そこで感じたのはラトビアの国がとても輝いていたことです。国力で比べると、やはり日本とラトビアは、まだまだ差があると思いますが、ラトビア人の皆様の心の豊かさや、ライフスタイルの豊かさなどは、私たち日本人が学ぶべきことがたくさんあると思います。

ここにいる協会の皆様のご尽力により、留学生の交流をはじめ、スポーツや音楽、もちろんビジネスなどにおいても、本当に年々交流が深くなっているなと感じています。私はラトビアから生活雑貨を輸入する仕事を始めてから2019年で10年になりますが、本当にこの10年で交流が深まっていると感じています。

2019年、神戸市とリガ市は姉妹都市提携45周年を迎えます。2020年は東京オリンピックもありますし、こうしたことが一つの契機になり、これからもますます日本とラトビアの交流が深まればいいなと切に願っております。

長くなりましたが、それでは皆様、グラスをお願いします。

ラトビアらしく、ラトビア語で「ご健勝を」という意味の「ウズ･ベッセリーブ」と発声したいと思います。練習はよろしいでしょうか（笑）。声高らかに願います。

それでは、ラトビアと日本、その絆、ここにいる皆様のご健勝をお祈りしまして、ウズ･ベッセリーブ！

正司常務理事 挨拶

このように多くの皆様に、この関西日本ラトビア協会の総会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。

今日はマスィー大使にご出席をいただき、ラトビアの経済や政治のお話をしていただきました。そしてまた日本との交流が様々な分野で進んでいるということもお聞かせいただき、ラトビアにより親近感を感じることができました。本当にありがとうございました。

今、香港ではまだ大騒動が終わっていません。先ごろ、終息宣言が出されましたが、デモはまだ続いています。先日、テレビでバルト三国の国民が「人間の鎖」をされて独立を勝ち取ったという番組を見ました。そして、同じことを香港でもしたそうです。私は、このラトビア協会に入っていなければ、すっと聞き流していたかも知れませんが、ラトビア協会のことがありましたから、それを見て「ええっ」と驚きました。

考えてみれば、かつてバルト三国で独立宣言がなされたときは、テレビで全国放送されることもありませんし、インターネットもない時代でした。そんな当時の独立を勝ち取ったときの状況を考えますと、本当に筆舌に尽くしがたいような傷みや苦しみなど、いろいろある中で、勝ち取られたのだろうなと私はそのとき思いました。だから、その当時のラトビアの方々の努力に、深甚なる敬意を表する次第であります。

このラトビア協会ができ、交流が深まっているということについて私も大変うれしく思っております。実は、ラトビアに行きたいなと思っていながら一度も行っておりません。しかし、必ずや近いうちには行き、ラトビアの魅力を大いに満喫したいと思っております。

今日は本当に楽しい総会になりましたことを、皆様に心から御礼を申し上げます。

ラトビアのますますの発展と大使のご活躍、そして関西日本ラトビア協会の発展、そしてここにおられる皆様の一人ひとりのご多幸をお祈り申し上げまして、中締めのご挨拶といたします。本日はありがとうございました。

2019 4.19

リガ文化学校と神戸龍谷高等学校の皆さんが来館

交流事業を行っているリガ文化学校と神戸龍谷高等学校の先生・生徒の皆さんが在大阪ラトビア共和国名誉領事館に来訪されました。

館内をご見学いただいた後、リガ文化学校の生徒からはラトビアの学校・教育についてプレゼンテーションをしていただき、その後、短い時間でしたが懇談をしました。ラトビアの高校生と日本の高校生という若い世代の交流を見て、彼女達がそれぞれの友達に両国の文化・慣習を伝えていくことで、さらに交流の輪が広がっていくことを願っています。

2019 4.23

トークサロン：ポストモダーンの世界で小国の価値を考える

風呂本理事をゲストスピーカーに迎え、トークサロンを開催しました。今回は「ポストモダーンの世界で小国の価値を考える」というテーマで、アイルランドの話をしていただきました。

昨今、世界で大国の支配が強まる中、小国の連帯の力が大切といわれています。ラトビアにも共通する話であろうかと思います。現在アイルランドでは、ブレグジットに揺れるイギリスとの国境問題がありますが、この問題をとらえて、文化を中心としたイギリス・アイルランド両国の違いやアイルランドの歴史について語っていただきました。

本当に奥の深いお話をしていただき、トークサロンの時間では話が尽きず、最後の締めのお話は懇親会の場でしていただきました。普段はなかなか聞くことのできない貴重なお話をありがとうございました。

2019 5.16

ラトビア大学からの留学生が来館

ラトビア協会から奨学金を支援している留学生のロセブ・デニスさんとアボラ・エリーナさんが在大阪ラトビア共和国名誉領事館に来訪されました。

お二人ともラトビア大学から関西学院大学へ約1年間の留学です。今回が初来日ということで、座学での日本の勉強はもちろん、日本を感じることができる様々な土地に行き、日本の伝統文化を体感したいと話していました。短い時間でしたが、上野常務理事、オルガさん、事務局のダナさん、甲斐と懇親を深めることができました。

アボラ・エリーナさん（左）と、ロセブ・デニスさん（右）

（前列左から）上野常務理事、ダナさん、事務局・甲斐
（後列右）オルガさん

2019 5.17

神戸でリガ市訪問団の歓迎レセプション開催

リガ市と神戸市の姉妹都市提携45周年を記念して、神戸のTHE SORAKUEN（旧相楽園会館）にてリガ市訪問団の歓迎レセプションが執り行われました。

オープニングは、ラトビアの音楽グループ「タウトゥメイタス」の素晴らしい歌声で始まり、神戸副市長、リガ市のラゼヴィチ事務局長、神戸市会の北山議長より挨拶があり、とても和やかな雰囲気のなかで会が催されました。またマスィー大使、関西学院大学の留学生デニスさんも参加されました。

協会からは石橋名誉領事をはじめ、十数名参加させていただき、リガ市訪問団、「タウトゥメイタス」との懇親を深めることができました。

タウトゥメイタスの皆さん

マスィー大使（左）、石橋名誉領事

ラゼヴィチ事務局長（リガ市）（左）

2019 5.19

第49回神戸まつりのパレードに参加

関西日本ラトビア協会として、協会会員、リガ市訪問団、神戸市市長室国際部職員、そして音楽グループ「タウトゥメイタス」を合わせ70名を超えるメンバーが集まり、「第49回神戸まつり」のパレードに参加しました。みんな民族衣装に近しい服で揃え、フラワーロードから三宮中央通りまで、楽しくパレードしました。

タウトゥメイタスの皆さんほか

総勢約70名。参加者の皆さんで記念撮影

2019 5.20

『タウトゥメイタス』コンサート開催

神戸市･リガ市の主催で、関西日本ラトビア協会が協力したラトビアの音楽グループ「タウトゥメイタス」のコンサートに、協会の会員十数名で参加しました。

グループ名の「タウトゥメイタス」という言葉は、昔は「年頃の乙女」、今では「民族衣装を着る女性」を意味しているそうです。

彼女たちの音楽は、ラトビアの民族音楽を現代風にアレンジしたものです。ラトビアでは、歌と踊りの文化が根付いており、嬉しい時も悲しい時も、歌を歌い、踊りを踊るそうです。

メンバーが歌う姿と声は、とても迫力があり、歌声は心に染み入るようでした。ラトビア人の歓びや哀しみなど、生活の全てを歌と踊りで表現しているように感じ、心に響くコンサートとなりました。

コンサートの様子

（左から）ユリス･ラゼヴィチ リガ市事務局長、東郷顧問

（右から）事務局ダナさん、上野常務理事

2019 6.27

ムールニエツェ国会議長を囲む会開催

ラトビア共和国 イナーラ･ムールニエツェ国会議長が、東京で開催された「WPL（女性政治指導者）サミット2019」参加のため来日されたことに伴い、国会議長を含む訪問団とラトビア協会理事が集い、石橋理事長主催の情報交換･懇親会を開催しました。

イナーラ･ムールニエツェ国会議長

2019 7.16

トークサロン：ラトビア音楽を通して届けたい声

ラトビア含めヨーロッパで音楽活動をしている中川雅貴さんをゲストスピーカーに迎えてトークサロンを開催しました。今回は「ラトビア音楽を通して届けたい声」というテーマで、ラトビアでの音楽活動の話をしていただきました。

中川さんとラトビアとの出会いは、大学時代に遡ります。ゼミの一環で、数日間ラトビア農業大学に行かれたとき、大学近辺の風景とラトビア農大の川の風景がとても似ていたことから、何かしらのシンパシーを感じ、ラトビアに魅了されたそうです。

ラトビアに関係することを何かできないかと考え、中川さん自身、音楽がとても好きということもあり、最初のステップとして、ラトビアの有名な曲をカバーしてSNSにアップしたところ好評を博し、ラジオ・雑誌等メディアに取り上げていただくようになったそうです。その後、ラジオのオープニングを担当したり、バックミュージックの作曲をしたりするなど、ラトビアでの音楽活動の幅が広がっていったそうです。

2019年の9月にラトビア訪問を予定されていますが、テレビ等のメディアからのオファーも受けており、またスタジオライブも行うなど、現地では主に音楽活動をされる予定です。

今後もこのように、音楽を通じてラトビアの魅力を伝える活動を続けていくと力強く話されていました。将来的にはラトビアに永住できればとも語っておられました。中川さんには今後もまた協会の方にも顔を出していただき、いろいろなお話をしていただきたいと思います。

トークサロン後の懇親会では、関西日本ラトビア協会が支援し、関西学院大学に留学しているラトビア大学の学生、そして、協会主催のラトビア短期ホームステイに参加する高校生も参加するなど、活発な情報交換が行われました。

国際ミュージシャンの中川雅貴さん

2019 7.22

「ホームステイ in ラトビア」の高校生が元気に出発

関西日本ラトビア協会主催の「ホームステイ in ラトビア」に参加する高校生2名が、関西国際空港から元気に出発しました。

8月8日まで18日間、ラトビアでのさまざまな体験が待っています。報告はトークサロンにて。

出国の様子

2019 8.8

「ホームステイ in ラトビア」の高校生が無事帰国

関西日本ラトビア協会主催の「ホームステイ in ラトビア」に参加した高校生2名が、元気いっぱいで帰って来ました。ラトビアでのさまざまな体験報告は、トークサロンにて。

2019 9.4→9.18

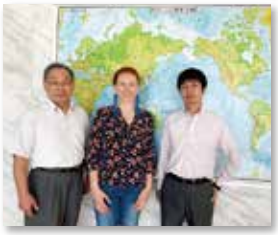
日本語学習者訪日研修を実施

関西国際空港近くの関西国際センターにおいて日本語学習者訪日研修が行われました。センターには50数カ国の若者が集まり、協会からはウンディーネ・アラーヤさんを招聘しました。

ウンディーネさんは、今回が初めての来日。見るもの、食べるもの全てが楽しいと明るく話をしてくれました。

研修が休みの日は、理事の竹村さんと一緒に奈良を観光。また別の休日には、理事の植田さん、常務理事の上野さん、そして協会の奨学生アボラ・エリーナさんも一緒に、大阪の住吉大社、岸和田などを訪問し、岸和田だんじり祭も見ました。

帰国前日に開かれた修了式の時には、まだまだ日本にいたいと話していました。また、ぜひ来日して欲しいと思います。



上野常務理事（左）
ウンディーネさん（中央）

エリーナさん（左）
植田理事（右）

修了証書授与　ウンディーネさん（左）と
関西国際センター所長 赤木攻さん

上野常務理事

2019 10.24

レヴィッツ大統領を囲む会開催

天皇陛下即位の礼にご臨席のため来日されていたラトビア共和国 エギルス・レヴィッツ大統領を含む訪問団と、石橋理事長及び前理事長の東郷顧問、並びにラトビア協会理事が集い情報交換・懇親会を開催しました。懇親会翌日には安倍総理大臣と首脳会談を行うなど、お忙しい中ではありましたがラトビア協会との親睦を深めていただきました。

エギルス・レヴィッツ大統領（前列中央）

2019 11.3

日本語弁論大会の優勝者エリーナさん来日

2019年3月にラトビアで開催された日本語弁論大会で優勝したエリーナ・ブリエデさんが、ラトビアからの優勝賞品の日良航空券で来日されました。

中学の時に日本のテレビを見て、日本の文化・言葉に興味を持ち、高校生になって授業で日本語を学び始めると、より好きになったそうです。

11月3日から約3週間、大阪、金沢、富山、横浜、東京をめぐり、日本を満喫されるそうです。今回は、旬の食べ物を食べたり、紅葉を見たり、この時期ならではのアクティビティを楽しみにされているそうです。明日は、ラトビア協会主催の奈良観光にも参加されます。また、現在大学2年生のエリーナさんは、チャンスがあれば日本に留学したいと話していました。頑張って欲しいと思います。

協会へのお土産として、黒パン、ライマチョコなどのお菓子、紅茶、バルザム、ステンダースの入浴剤など、たくさんいただきました。

2019 11.4

世界遺産・古都 奈良観光ツアー

大和ハウス工業主催、ラトビア協会もサポートしている外国人留学生限定の「世界遺産・古都　奈良観光ツアー」に、ラトビア人を含め15カ国の留学生、総勢22名が参加しました。

東大寺の大仏から始まり、興福寺国宝館では阿修羅像、木造千手観音菩薩立像を拝観し、お昼は築250年のお座敷で奈良にちなんだ料理をいただきました。午後は、江戸・明治の面影を今に伝える「ならまち」を散策。その後、大和ハウス工業奈良工場に向かい「住まいまるごと体験館」では、地震体験、現物を使っての建物の耐震構造や断熱材の説明など、自然の脅威から家を守る「強い家づくり」を体験してもらいました。一日中天気が良く、気持ちよく散策できました。

日本の文化・歴史を肌で感じ、もっと日本を好きになっていただけたなら幸いです。ツアーの参加者同士で新たな交流もできたようで、来年も開催したいと思います。

来日中の弁論大会優勝者のエリーナさんと、ラトビア大学のアグネセ先生にもご参加いただき、出発前に在大阪ラトビア共和国名誉領事館を見学していただきました。

奈良観光・散策の様子

築250年のお座敷で奈良にちなんだ料理を堪能。

午後には江戸・明治の面影を今に伝える「ならまち」を散策。

大和ハウス工業 奈良工場訪問

大和ハウス工業奈良工場に向かい「住まいまるごと体験館」で、地震体験、現物を使っての建物の耐震構造や断熱材の説明など、自然の脅威から家を守る「強い家づくり」を体験。

「世界遺産・古都 奈良観光ツアー」出発前、在大阪ラトビア共和国名誉領事館を見学

来日中の弁論大会優勝者エリーナさん（写真中央）と、ラトビア大学アグネセ・ハイジマ先生も参加いただき、出発前に在大阪ラトビア共和国名誉領事館を見学していただきました。

出発前に在大阪ラトビア共和国名誉領事館を見学しました。

2019 11.7

トークサロン：充実したライフを送るために～ラトビア留学を経て～

大学3年生の平野さんをゲストスピーカーに迎えてトークサロンを開催しました。

今回は「充実したライフを送るために～ラトビア留学を経て～」というテーマで、2018年から2019年にかけて1年間のラトビアでの留学生活を通じて体験・体感したことを語っていただきました。

平野さんは3歳から英語に触れ、留学を夢みて学んできたそうで、高校に入り、短い期間の留学はされていましたが、これほど長い留学はラトビアが初めてだったそうです。

ラトビアでは、何でもしてみようと、ダンスに音楽、マラソン、イースターでのイースターエッグ作りなどに積極的に取り組んだそうです。また、チャンスは逃さないという気持ちで、郊外など、いろんな土地を巡ったり、老若男女問わずさまざまな人と笑顔で接したりしたそうです。ラトビアの文化、自然、食べ物など、五感全てを使って満喫してきたことが伝わるトークでした。

トークサロン後の懇親会では、関西日本ラトビア協会が支援し、関西学院大学に留学しているラトビア大学の学生も参加して、活発な情報交換が行われました。

2019 11.9

「FARM to FORK 2019」のリガ市ブースをサポート

神戸の東遊園地で開催中の「FARM to FORK 2019」に、神戸市×リガ市姉妹都市提携45周年を記念して出店されているリガ市のブースに、協会からラトビアのパンフレット、バルザム、リボンを提供するなどのサポートをさせていただきました。

ブースでは、ラトビア協会会員でミトン作家の鈴木さんと食育コーディネーター辻さんのお二人、そしてリガ市から来日されたリンダ・プキーテさんに迎えていただき、リガのチョコや、溝口常務理事から差し入れられたハーブティーをいただきました。ミトンやリンダさんの民族衣装などで、華やかなブースは、とても賑わっていました。

辻さんは、トークセッションに登壇され、リガの紹介をされました。「リガは自然と街と人に境界がなくフラットな感じでとても近い存在で、重なり合ってるような心地よい雰囲気を出している。また、今ITを含め急成長を続けている中で、伝統文化も廃れず、より大切にしており、こちらもそれぞれが融合されている」との話をされていました。

辻さん（中央）

鈴木さん（左）

2019 11.10

ラトビアの音楽グループ「Auli」来日公演

「Auli（アウリ）」の公演が伊丹アイフォニックホールで開催されました。会場ロビーでは、常務理事の溝口さんのお店「SUBARU」も出店されていました。

公演は溝口常務理事の司会でスタート。バグパイプと太鼓の迫力ある音色が響きわたり、落ち着いた曲ではしっとりと、アップテンポな曲では、手拍子、掛け声、さらにはAuliのメンバーと観客が一緒に踊る楽しい時間もあり、あっという間の2時間でした。

公演後には、サイン会も行われ、盛況のうちに終わりました。

溝口さん（左から2人目）

Auliの皆さんと記念撮影

2019 11.12

富田林市立葛城中学校の生徒が来館

富田林市立葛城中学校の生徒が、校外学習で生徒6名だけでラトビア名誉領事館に来館してくれました。

ラトビア領事館を選んだ理由は、メンバーが誰も知らない国だったので、どんな国なのか興味をもったとのことでした。

生徒一人ひとりからラトビアの歴史、文化、建築物、宗教など事前に学んだことを発表してくれました。協会からは、ダナさんが東京からオンラインでラトビアの歴史、文化、食事、スポーツなどさまざまな紹介をしました。

1時間ほどでしたが、興味をもってラトビアのことを調べ、一生懸命に発表してくれたことを嬉しく思いました。また学校に戻って友達にラトビアのことを話していただき、多くの生徒に知ってもらえたらと思います。

帰り際には「パルディエス!（ありがとう!）」と元気に挨拶して帰っていきました。

協会のダナさんが東京からオンラインで
ラトビアについて生徒たちに紹介

2019 11.20

ラトビア建国101周年レセプション開催

ラトビア共和国大使館にて、建国101周年レセプションが盛大に行われました。

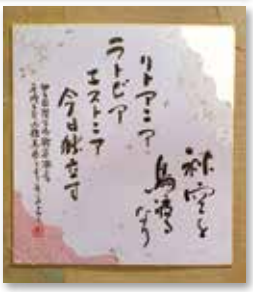
特命全権大使のダツェ トレイヤ・マスィー大使がご挨拶され、続けて、先日ラトビアを含むバルト三国を訪問された森まさこ法務大臣がご挨拶されました。そして、日本・ラトビア友好議員連盟会長の中曽根弘文議員の乾杯のご発声によりレセプションが始まりました。各関係者が多数集まり、マスィー大使を囲んで和やかな雰囲気の中、懇親会が開かれました。

協会からは、石橋名誉領事夫妻をはじめ、上野常務理事、池田常務理事他、多数参加させていただき、ラトビアに親交のある皆様と101周年のお祝いをさせていただきました。

また、このレセプションには、昨年、協会で奨学金を支援したアルタさんも参加されていました。アルタさんは、昨年大学を卒業後、日本でもっとラトビアの魅力を伝えていきたいという強い想いから、ラトビアのルーイエナ町の姉妹都市である北海道の東川町役場に就職し、国際交流促進の仕事をされています。今後、アルタさんのように、協会に関わった方々で、日本とラトビアの交流に携わる仕事や活動をしてくださる方が増えればいいなと願っています。

アルタさん（後列左から4人目）

マスィー大使とともに、森法務大臣、中曽根議員



2019 12.3

関西学院大学でマスィー大使の講演会開催

ラトビアとゆかりの深い関西学院大学にて、ラトビア大使館マスィー大使の講演会が開催されました。関西学院大学の学生のほか、協会会員を含めて500名程度が参加。通訳は、協会会員の増田さん（メディアテック）が務められました。

講演後、大学博物館に上平理事（大伸社取締役副社長）より寄贈されたラトビア製の低反射ガラスを使ったケースを見学されました。

増田さん（左）

池田常務理事〈関西学院大学学院史編集室〉（左）

2019 12.19

トークサロン：ホームステイ in ラトビアの活動報告

7月～8月にかけて約3週間ラトビアホームステイに参加された高校生の2人にラトビアでの活動報告をしていただきました。

今回、初の試みとして、1ホストファミリーに1人がホームステイし、よりラトビアを深く感じてもらえるプランとしました。

その成果もあってか、ホームステイ先の家族と深く触れ合うことができたと聞きました。初めてのラトビア訪問でしたが、ラトビアの文化・伝統を見て、触れて、食してと全身で満喫し、とても充実した時間を過ごすことができたそうです。

2人とも、このラトビアのサマースクールを通じて、ラトビアがもっと好きになったと話していました。2人には、ラトビア訪問を忘れず、周りの友達にラトビアの話をしてほしいと思います。トークサロン後の懇親会も、2人のラトビア体験談などで盛り上がりました。

武正さん

大塚さん

サマースクールでの様子

常務理事の溝口さんより、「ラトビアの手編みミトン」（中田早苗著）を協会に進呈いただきました。名誉領事館に展示させていただきます。ありがとうございました。

2020 1.22

トークサロン：日本での留学生活

ラトビア大学から関西学院大学へ交換留学中のデニスさんとエリーナさんに「日本での留学生活」について話をしていただきました。2人は留学生活の8ヶ月間で、勉強だけでなく同級生たちといろいろな体験をされたそうです。

エリーナさん（左）とデニスさん（右）

2020 2.19

トークサロン：バルト三国に学ぶ

2月のトークサロンは、神戸市シルバーカレッジに通われている伊藤様、荻野様、長嶺様、志智様、木村様、秦様の6名にスピーカーになっていただき、「バルト三国に学ぶ」というテーマで発表していただきました。この内容は、伊藤様チームが学校で卒論として昨年12月に発表されたそうで、ぜひラトビア協会でも発表してもらいたいと思い実現いたしました。伊藤様のチームが、このテーマを選んだ理由は、2019年が神戸市とリガ市との姉妹都市提携45周年記念であったこと、歴史・文化・環境の違う、北欧の国から学ぶことがあるという期待感に惹かれたとのことでした。

卒論を作成にするあたり、神戸市の国際部や当協会の溝口常務理事に話を聞き、また、ルーイエナ町と姉妹都市の東川町に足を運んだり、ラトビアに関する様々なイベントに参加するなどしたそうです。また昨年夏には、実際にバルト三国へ渡航し、目で見て触れて、より知識を深めてきたとのことでした。皆さんから、ラトビアの歴史、自然の話、産業の話、また、エストニア・リトアニアとの経済・社会制度の違い、また、北欧の美術館等、芸術の話、食の話など、6名の方から、それぞれ発表していただきました。今回の研究を通して皆さんは、バルト三国、東川町という決して大きくない国であったり町であったりする場所でも新しい発見や学ぶべきことが沢山あることに気付かされ、我々が住む、神戸市のような大きな都市であってもこれらの優れた事例を積極的に取り入れていくことが大切だと学んだようでした。

伊藤さん

荻野さん

長嶺さん

志智さん

木村さん

秦さん

個人会員一覧

50音順（2020年8月現在）

明石　恭治	木下　武幸	長塚　徹	堀田　健二
芦田　雅行	粂　悦子	中西　雄生	堀　明文
安達　和彦	小泉　公延	中橋　美穂	堀内　孜
阿部　雅子	小巖　仰	中村　きさ子	本田　龍一
荒木　美眞	河野　眞一郎	中山　三喜子	間崎　泰光
石原　美生子	権藤　眞禎	夏目　剛	益田　信行
伊藤　茂男	雑古　晴弘	成瀬　康夫	三木　保人
今城　孝司	佐々　美汎	西野　勝弘	水谷　隆之
岩井　二郎	荘　雅弘	西村　優	三宅　康彦
岩井　香代子	鈴木　亜衣	野口　末廣	宮本　菜穂
上北　耕司	鈴木　広隆（新規入会）	灰田　昌美	宮本　正明
榎本　勤	住江　六郎	白雪梅	物部　健依
大國　利雄	竹内　大樹	長谷川隆一	桃井　猛
大島　茂	立岡　弘	濱田　諭稔	森川　彩子
大槻　恭正	田中　伸一	早川　明弘	森本　健太郎（新規入会）
大西　信幸	田中　悠樹	平田　大	安田　勝
大野　たか子	田野　吉一	藤田　千賀子	山口　利幸
大橋　正孝	辻　かおり（新規入会）	藤本　昌男	山﨑　志野
岡　美文	鶴田　宜江	藤山　かよ	山崎　俊輔
尾崎　由佳	寺田　昇司	藤原　和之	山原　一晃
金田　直樹	東郷　久野	藤原　秀之	山村　有佳里
家門　正	轟木　裕子	古川　一郎（新規入会）	横山　晴貴
河﨑　圭亮	鳥尾　二郎	古川　岩夫	脇山　廣三
喜多　一裕	中島　文子	古田　晴彦	渡辺　範子
衣笠　武彦	長田　実	古海　賢二	

顧問・理事一覧

名誉顧問	ダツェ　トレイヤ・マスィー	理事	浅野　敏行	理事	清水　良二（新任）
顧問	東郷　武	理事	石橋　さゆみ	理事	竹村　肇
顧問	多賀　敏行	理事	植田　多江子	理事	谷本　瑞絵
		理事	上平　豊久（新任）	理事	平越　國和
理事長	石橋　民生	理事	太田　敏正	理事	風呂本　武敏
常務理事	池田　裕子	理事	大辻　伸幸	理事	山本　拓（新任）
常務理事	上野　慶三	理事（事務局長）	甲斐　丈晴		
常務理事	正司　泰一郎	理事	金井　雅孝	理事（監事）	寺岡　志郎
常務理事	溝口　明子	理事	木村　宗光	理事（監事）	近久　啓太

法人会員一覧

50音順（2020年8月現在）

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	三洋工業株式会社	日鉄物産株式会社
株式会社アサノ	清水木材株式会社	日本電気株式会社
朝日ウッドテック株式会社	株式会社ジャパンビバレッジホールディングス	日本アーツ株式会社
株式会社朝日押捻子製作所	昇信化成株式会社	日本ノボパン工業株式会社
株式会社旭屋書店	日本製鉄株式会社	ニホンフラッシュ株式会社
株式会社石川製作所	株式会社伸明	日本マイクロソフト株式会社
株式会社イシモク・コーポレーション	株式会社伸和エージェンシー	株式会社ノザワ
株式会社伊藤園	スターネット株式会社	株式会社ハウステック
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	セコム株式会社	株式会社PFU
稲畑産業株式会社	株式会社ゼンリン	フクビ化学工業株式会社
因幡電機産業株式会社	綜合警備保障株式会社	富士通株式会社
株式会社岩崎貞三商店	損害保険ジャパン株式会社	株式会社富士通エフサス
株式会社インターネットイニシアティブ	ダイキン工業株式会社	フルサト工業株式会社
SMB建材株式会社	株式会社大伸社	株式会社フルタイムシステム
SCSK株式会社	ダイドードリンコ株式会社	文化シヤッター株式会社
SCSKサービスウェア株式会社	大日鋼業株式会社	株式会社マイティ
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	大和エネルギー株式会社	松本林業株式会社
応用技術株式会社	大和ハウス工業株式会社	株式会社丸加商店
大阪ガス株式会社	大和物流株式会社	株式会社丸国林業
株式会社大塚商会	大和リース株式会社	丸紅木材株式会社
河村電器産業株式会社	タカラスタンダード株式会社	株式会社マルホン
株式会社木下カンセー	チヨダウーテ株式会社	株式会社みずほ銀行
株式会社キョーライト	ツカ・カナモノ株式会社	みずほ信託銀行株式会社
キリンビール株式会社	都築電気株式会社	株式会社三井住友銀行
クマリフト株式会社	ディーエイチホーム株式会社	美和ロック株式会社
株式会社構造計画研究所	株式会社デザインアーク	株式会社メディアテック
コマツカスタマーサポート株式会社	株式会社東芝	ユタカインテグレーション株式会社
三京化成株式会社	TOTO株式会社	株式会社ユニフロー
株式会社山水	トランス・コスモス株式会社	株式会社LIXIL
サンスター技研株式会社	株式会社南都銀行	菱電商事株式会社
サントリーコーポレートビジネス株式会社	日鉄鋼板株式会社	YKK AP株式会社
サン美術印刷株式会社	日鉄建材株式会社	渡辺パイプ株式会社

編集後記

2019年は、リガ市と神戸市の姉妹都市提携45周年を迎え、リガ市事務局長含めリガ市訪問団が神戸に来日しました。ラトビア協会として、レセプションに参加したり、協会会員含め関係者約70名で神戸まつりのパレードに参列したりして45周年をお祝いしました。その他、トークサロンの開催、奨学生の受け入れなどさまざまな協会活動を活発に行いました。また今回、会報誌をリニューアルし、活動内容に加えラトビア基本情報を巻頭に掲載するなど、会員以外の方にも、ラトビアに興味をもっていただけるようレイアウトしました。当協会は、今後も活動の幅を広げていきたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。　（事務局　甲斐）

cover photo by Akiko Mizoguchi

発行：2020年8月
編集：在大阪ラトビア共和国名誉領事館　関西日本ラトビア協会事務局
大阪市北区梅田3−3−5　大和ハウス大阪ビル